

平成28年度(第1回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

エネルギーシステム分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価専門委員
東京工業大学特命教授
柏木 孝夫

今回の応募と採択について

- 応募案件(当分野)は1件→1件を採択
- 今回の応募案件の特徴
 - 新規開発街区だけでなく、既存街区も含めた電力・熱の面的なエネルギー供給と、エリア全体でのエネルギーマネジメントを行う提案

採択案件の概評

自立分散型エネルギーの面的利用による 日本橋スマートシティの構築

提案者: 三井不動産TGスマートエナジー株式会社

<概評>

- 都心の再開発を契機に、周辺の既存建物を含めた電力・熱の面的供給と、地域エネルギーマネジメントに取り組む意欲的な提案である。
- 新設するコージェネレーションを中心に、平常時の省CO₂と非常時の電力・熱利用の継続について、既成市街地で面的に目指す取り組みは先導的だと評価した。

3

今後の期待

- エネルギーの小売り自由化などの制度改革も見据え、複数建物や街区全体において新たな試みを実際に適用する提案
 - ・ 地域としての効率的なエネルギー利用
 - ・ 電力システム全体の効率化や平準化
 - ・ 非常時のBCP対応に貢献する提案 など
- 環境配慮型のまちづくりにつながる提案
- 採択事例の少ない地域、これまでの採択事例で提案された省CO₂技術を上手く活用し、波及・普及につながる提案に期待

4

平成28年度(第1回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

省エネ建築・設備分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
国立研究開発法人 建築研究所 理事長
坂本 雄三

今回の応募と採択について

- 応募案件(当分野)は3件→**3件**を採択
(一般部門**3件**、中小規模建築物部門**0件**)
- 今回の応募案件の分類
 - ファッションビルの建替え新築プロジェクト
 - 放送施設の新築プロジェクト
 - 事務所・ホテル等の複合用途ビルの改修プロジェクト

採択案件の概評① <一般部門>

Next 渋谷パルコ meets Green

提案者：株式会社パルコ、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

- 都市型ファッションビルの建替に伴う新築プロジェクト
- 省CO₂と来訪者の健康性向上、BCP対応を両立する取り組み
 - 回遊性を持つ緑の立体街路
 - 若者文化に対するデジタルコミュニケーション
 - 中圧ガス利用のコージェネレーションを中心とする高効率システム 等
- 省CO₂と健康性向上への取り組みは当然である。不特定多数の人々が利用し、地域FMのスタジオも併設する施設として、非常時の機能維持も積極的に取り組んでおり、先導的と評価。

3

採択案件の概評② <一般部門>

読売テレビ新社屋建設計画

提案者：読売テレビ放送株式会社

- テレビ放送社屋の移転新築プロジェクト
- 放送機能と事務所機能の特性を踏まえた取り組み
 - 中温と低温の冷水2温度送水による熱源
 - 利用形態に対応したスタジオ可変空調
 - 中圧ガス利用のコージェネレーションによる非常時のエネルギー自立 等
- エネルギーの自立と省CO₂の両立に積極的に取り組んでおり、先導的と評価。マスコミ施設における省CO₂への取り組みとして波及効果も期待。

4

採択案件の概評③ <一般部門>

光が丘「J.CITYビル」 ZEB Ready化総合改修事業

提案者: 光が丘興産株式会社、共栄火災海上保険株式会社
前田建設工業株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社

- 大規模修繕期を迎えた大型複合施設の改修プロジェクト
- 建築・設備の多岐にわたる総合改修でZEB Ready化
 - 熱負荷削減改修(照明の高効率化、窓の高断熱化等)
 - 空調・熱源システムの再設計・ダウンサイジング
 - 既設蓄熱槽の非常用水槽への転用
 - BEMSの再構築 等
- 多様な改修手法は確実性が高く、BCP対応にも配慮しており、総合的な改修プロジェクトとして先導的と評価。

5

今後の期待と反省

- COP21／パリ協定において、日本政府が示した2030年の約束(pledge)は2013年比**26%減**。そのうち、我が民生部門はなんと**40%減**！ これに応えられる提案を期待する！
- 今回は応募が少なかった。
上のような大きな目標が定まったにも拘わらずなぜか？
 - たまたまか？ 応募が面倒か？
 - 補助金に魅力がなくなったか？
(一方でZEHの補助金は繁盛している)
 - 省エネ手法もネタ切れか？

6

平成28年度(第1回)
サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)
概評と今後の動向

生産・住宅計画分野に
おける立場から

サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)評価委員
東京大学大学院准教授
清家 剛

今回の応募と採択について

- 応募案件(当分野)は4件→2件を採択
(共同住宅:0件→0件、戸建住宅:4件→2件)
- 今回の応募案件の特徴
 - 高断熱等によって健康性と省エネ性を向上する戸建住宅の普及を目指す提案など
- 採択案件の特徴
 - 地域工務店による省CO₂型住宅の普及につながる取り組み
 - 熊本地震の被災地における省CO₂型住宅の展開
 - 省エネへの取り組みが遅れる地域での底上げを図る展開

採択案件の概評①

熊本地震復興支援くまもと型住宅先導プロジェクト

提案者：くまもと型住宅生産者連合会

<概評>

- 省CO₂と健康増進及び防災性の向上を目指す地域モデルの構築、地域材活用による地域経済の復興、各種ラベリング等に取り組むもので、地域工務店による取り組みとして先導的と評価できる。
- 早期に多くの住宅が実現され、被災地復興に貢献することを期待する。

3

採択案件の概評②

建材メーカーと地域工務店協働によるHEAT20を指針とした健康快適に暮らせる省CO₂住宅の地方都市・郊外を中心とした普及促進

提案者：株式会社LIXIL

<概評>

- 地域工務店へのサポートを強化し、北海道・東北、中国・四国を重点エリアとして、省エネ・省CO₂への取り組みの底上げを図るとの点は先導的と評価できる。
- 重点エリアにおいて省CO₂住宅の展開が着実に進み、室内環境向上の見える化等とあわせて波及が進むことを期待する。

4

今後の期待

- これまでの採択事例で提案された省CO₂技術の波及・普及につながる提案
 - ・ 波及・普及につながる工夫、補助事業の実施後の効果や展開などを明確にした提案を期待
- 省エネ・省CO₂の取り組みが遅れている分野、新たな価値の創出につながる工夫を盛り込んだ提案
 - ・ 既存住宅での省CO₂促進
 - ・ 地域特性を踏まえた省CO₂型住宅の波及・普及
 - ・ まちづくりとして一体的かつ幅広い取り組み
 - ・ 省CO₂と健康性の増進、子育て・介護支援 など